

2024 ACTIVITY REPORT

2023年7月 ~ 2024年6月30日

ICA

ICA

 **ICA Japan**
The Institute of Cultural Affairs

141-0001

6 6-15
105

 info.ica@ica-japan.org

 <https://icajapan.org>



理念：

ICAジャパンは多様性を尊重し、多文化共生の世界を創る

価値：

ICAジャパンは、ファシリテーション手法を通し、経済、文化、社会のバランスの取れた地域開発とその地域を担う人材を育成する

ミッション：

ICAジャパンは、人々の叡智を尊重し、対話型合意形成によって創出された多様な価値観を基に人間開発のプロジェクトを実践する

三原則：

1. 相手を尊重する
2. 自然環境に配慮する
3. 自己の存在を大切にする

会長挨拶 青柳 陽一郎



ICAジャパンの会長・衆議院議員の青柳陽一郎です。

コロナパンデミックが終わり、国際間の移動制限がなくなり、ICAジャパン本来の国際協力活動が少しずつ戻ってきました。コロナ禍で失われた3年間は、ICAにとってあまりに大きな課題を突き付けられましたが、同時に活動を見直す期間にもなり、新たなスタートを切るフェーズに入りました。私も皆さまと共に汗をかき、役割を果たしてまいります。

世界経済はグローバル化が進展し、新しい大企業がいくつも誕生しましたが、行きすぎたグローバル化は、格差と分断を招いているのではないかと、行きすぎた競争・効率化は、不当な労働環境を誘発し、また地球環境を破壊しているのではないかと、世界の人々が本当に幸せになっているのか、問われ続けています。長引くロシアのウクライナ侵略、イスラエルによるパレスチナ・ガザの攻撃に、国際社会は強く連携し、法による支配と平和の構築に取り組む必要があります。

格差や貧困、頻発する紛争は、特に社会的弱者である女性や子どもにこそ大きな影響を与えます。私達ICAジャパンは、このような課題に真正面から取り組み、平和・人権・法の支配、環境、貧困解消等を尊重するプロジェクトにこれからも挑戦してまいります。折り返しを過ぎたSDGsについても活動をリードして、社会貢献を積極的に展開してまいります。

佐藤前理事長の理念と理想を引き継ぎ、協会の先頭に立って、ICAジャパンの組織改革、ガバナンス改革に取り組んでいく所存です。これからの時代にふさわしい信頼されるNPOとして役員、会員、関係者の皆様と共に歩んでいきたいと思っております。今後とも皆さまの変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

活動報告(1)

バリ島 スタディツアー



2023年8月 ICAジャパンのインターン生5名と一般参加者10名が参加し、現地でSDGsの学びを深めるツアーを開催しました。バリの豊かな自然の中、現地の小学生や大学生、住民と交流しながら、教育、平和、環境に関するSDGsを学び、実践しました。

小学校では大学生と共に日本の遊びを紹介し、宮殿では王族や住民と文化交流を行いました。参加者はICAのファシリテーションを通じて、SDGsについて学び、貴重な体験をすることができ、教育や環境、平和の重要性を改めて感じたと感動の声が上がりました。

日本寄付財団 助成事業

世界は今、教育の重要性に目覚めています。世界の教育の遅れが国の発展を妨げる中、特に貧困家庭の子どもたちは、通学の困難さや貧困による働き手としての役割を強いられ、教育の機会を逃すことが多いのが現状です。これにより、幼児教育を受けられない子どもたちが進学意欲を失い、退学するケースが増加しています。

これまでICAジャパンでは、教育の推進として、教師の訓練、昼食提供のための設備支援、教材支援、菜園整備、安全な環境を提供するための校舎修繕を強化し、地域住民が安心して幼児教育を受けられるよう活動してきました。幼児教育は短期的な成果だけでなく、長期的に国の発展に繋がる学習の基盤を形成するものであり、その影響は非常に大きいです。

日本寄付財団の助成支援により、インドの8校での学校修繕が完了し、メキシコとハイチでの学校修繕も実施されました。さらに、現在はネパールで新たな校舎修繕が進められています。これらの取り組みにより、現地の子どもたちが安定した教育環境で学ぶことができ、彼らの未来に大きな影響を与えることが期待されています。御財団のご支援に心から感謝いたします。

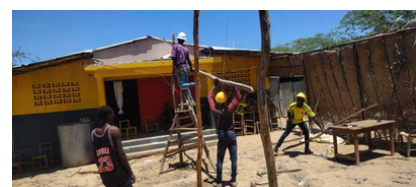
メキシコ

ICAは、2006年にメキシコのチアパス州に母と子の学習センターを設立し、縫製、パソコン、食品加工などの職業訓練を通じて女性の自立支援を行ってきました。研修中、シングルマザーは保育所に子供を預け、幼児教育も提供されています。この早期幼児教育システムは市のプログラムにも導入されています。しかし、施設の老朽化やコロナ禍による衛生環境の悪化が問題となり、校舎の修繕が急務です。現在、メキシコでは早期幼児教育が重要視されており、修繕が完了すれば保護者や地域の人々も安心して子供を預けられるようになります。助成事業で改修工事を行うことができ、子ども達だけでなく、多くの保護者から喜びの声が上がっています。

ハイチ

2010年のハイチ地震後、ICAは2011年に「ハイチ地震兵庫義援金」を利用してプチゴアーブ地区に小学校を建設しました。

現在は生徒数が増加し、教室や机、椅子、黒板などが不足しており、教室や給食室の改善・増築が必要です。震災から10年以上が経過し、地域の生活は安定しつつあるものの、依然として困窮者が多く、学校給食が子ども達への重要な支援となっています。教育の質の向上と教室の増設は地域住民の切実な願いです。今回の事業で校舎の修繕を行ったことにより、学習環境が大幅に改善されました。



活動報告(2)

インド

8校での学校修繕



インドの人口は2023年に中国を上回り、世界の人口で1位となりました。この人口増加はインドの経済成長の一因でもありますが、同時に教育や医療、インフラ整備などの課題にも直面しています。特に若年層が多いインドにおいて、教育の整備は国の発展にとって重要な要素となっています。

インドの教育に関する課題は、学校設備や教師の質と数の不足、貧困、政府の腐敗など多岐にわたり、いずれも根深い問題です。さらに、地域や家庭環境によって勉強ができる機会が大きく異なり、特に山村地域では、幼児・初等教育の基盤が脆弱であり、児童労働や教育格差の解消が急務となっています。

このような状況を改善するため、ICAジャパンは日本寄付財団の助成支援を受けて、教育施設の修繕に取り組んでいます。具体的には、校舎やトイレの修繕、遊具、フェンスの設置、学用品の提供を行いました。

これらの取り組みにより、児童労働の防止や教育格差の是正が期待されています。

インド視察ツアー 学校修繕・植林



日本寄付財団の助成事業により、インド・プネの農村地区にある8校で校舎の修繕が行われました。この事業では、老朽化した校舎の修理、トイレの設置・修理、遊具の設置などが実施され、現地の子どもたちが安全に学ぶ環境が整備されました。視察後、現地の子どもたちや保護者、地域住民の方々からの大歓迎を受け、交流会が盛大に行われました。また、日中友好会館の支援により行われた植林活動の視察も行い、日本からのスタッフと一緒に植林の研修も行いました。



ケニア SDGs スタディツアー



ケニアのマサイ地区に、日本の学生と参加者でSDGsスタディーツアーを行いました。2つの小学校(女子学校、男子学校)、そして難聴の学校を訪問し、それぞれ文化交流を行いながらSDGsを学びました。各j学校では日本文化や日本の遊びを体験してもらい、日本人と会う事も初めての子も達ばかりでとても喜んで歓迎してくれました。ケニアの子も達は歌やダンスを披露してくれ、有意義な文化交流が行われました。また、マサイ族のコミュニティーを訪れ、マサイ文化に触れる貴重な体験をする事ができました。また保健省と農業省を訪れ今後の連携を話し合いました。



活動報告(3)

ケニア マサイ地区植林事業 (ヤマイチライス)



日本から12名のボランティアが、ICAケニアとケニア南西部の地元農業普及チームとともに植林プロジェクトに参加しました。地元のコミュニティは牧畜の経験を持つマサイ族で、彼らは牛やヤギ、羊、ロバなどの家畜を飼育しています。過去2年間、長引く干ばつに見舞われ、家畜や作物、野生動物が失いました。干ばつ、洪水、気候変動により、この地域は非常に危険な状態になっています。そのような状況下で、植林活動は非常に意義深いものです。環境教育の一環として、高校生と小学生に植林の重要性、適切な農業慣行、樹木、森林被覆についての研修を行いました。今後も皆さまのご支援をいただきながら、学校での植樹活動を続けていきます。

また、SDGs/15「土地での生活」に焦点を当て、子どもたちとファシリテーション・ワークショップを行いました。



マルタ 医療支援チャリティー イベント



このイベントは、マルタの子どもたちの医療支援や、世界中で苦しんでいる子どもたちへの支援を目的として行われました。病気や障害のある子ども達を日本のアニメや漫画のサブカルチャーで楽しんでもらう為、日本からも有名コスプレイヤーに参加していただきました。日本からは78名が参加、マルタからは保健省やマルタ騎士団、多くの人道支援の財団関係者が参加し、日本と協力して、世界の障害や病気の子どもの医療と教育支援のサポートをしていく事を誓いました。日本文化の体験としてお祭りの縁日体験、コスプレパレードも行い、現地の方々にも楽しんでいただきました。また、現地の難病の子ども達の施設の訪問もコスプレイヤーと訪れ、子ども達と楽しい充実した時間を過ごしました。

今年2024年の11月には難聴の子ども達の支援の為の医療シンポジウムを保健省と共同で行われます。

ウクライナ女性代表団

女性のリーダーシップと
平和のフォーラム

小学校訪問



「競争から共創へ・女性のリーダーシップと新しい平和構築のための社会に向けて」というテーマを掲げ、ワークショップと平和フォーラムを開催しました。女性が自立と自由を手にし、平和構築のために新しい社会を作るための取り組みを推進することを目的として行われました。ウクライナから10人の代表団が来日し、衆議院議員議員会館で行われました。代表団からはウクライナの現状を語ってもらい、戦争の現実を直に聞き平和の重要性について改めて考えさせられるフォーラムとなりました。高校生や大学生も未来に向けたアクションプランを発表し、次世代のリーダーたちが前向きなビジョンを示し盛況に行われました。代表団は横浜の保土ヶ谷小学校を訪問し、子ども達とウクライナのゲームや平和のアートを作成し交流を楽しみました。そして、子ども達は代表団の戦争の話聞いて日本が平和である事に感謝し平和の大切さを学びました。



活動報告(4)



ウクライナ アートイベント



ウクライナのアーティスト、LESYAさんをお招きし、ウクライナ大使館と共催でウクライナの文化やアートについてお話を伺い、「ウクライナアートイベント」を開催しました。参加者は、ウクライナの伝統的なお菓子を楽しみながら、ウクライナの文化と現在のウクライナの状況の話をお伺いしました。

このイベントでは、ICAが支援しているウクライナで、障害のある子ども達への教育支援としチャリティーが行われました。参加者にはウクライナの障害のある子ども達が描いたポストカードがプレゼントされ、心温まる文化交流会となりました。



ウクライナ 子ども達の教育支援

ウクライナの子どもの教育支援としてタブレットの購入の為に支援を行いました。現地の子ども達にタブレットが届けられました。



マルタ・ケニア 障害のある子ども達の支援活動

マルタ・ケニアとも保健省や政府と連携を取り、障害のある子ども達の医療支援と教育自立支援の活動が今年からスタートしました。



事業概要 (1-1)

2023年7月～2024年6月30日

(1-1) 海外支援事業

①

バリ島スタディツアー

事業内容：バリ島クランピタン地区SDGsスタディーツアー
実施期間：2023年8月
従事者数：日本側 4名、現地側 8名
参加者数：学生、一般社会人、地域住民など 約 160名
開催地：インドネシア共和国バリ州

②

Maaaruインド視察ツアー

事業内容：Maaaru支援校訪問と植林スタディーツアー
実施期間：2023年10月16日～20日
従事者数：日本側5名、現地側 24名
参加者数：スポンサーの皆さま、現地児童や教師、地域住民 約500名
開催地：インド共和国 プネ、デリー、アグラ

③

インド 8校 学校修繕

事業内容：教育環境の改善のための学校修繕
実施期間：2023年9月～10月
従事者数：日本側 3名、現地側 名
受益者数：学生、教師、保護者、地域住民 約1000名
事業地：インド
支援機関：一般財団 日本寄付財団

④

ケニアマサイ地区植林事業 (ヤマイチライス)

事業内容：ケニアマサイ地区植林事業
実施期間：2023年10月～2024年3月
従事者数：日本側 3名、現地側 12名
参加者数：学生、教師、保護者、地域住民 約1000名
開催地：ケニア共和国

⑤

ケニア マサイコミュニティ SDGsスタディーツアー

事業内容：ケニアマサイコミュニティSDGsスタディーツアー
実施期間：2023年10月
従事者数：日本側 5名、現地側 19名
参加者数：学生、教師、保護者、地域住民 約1460名
開催地：ケニア共和国

⑥

メキシコ 学校修繕

事業内容：教育環境の改善のための学校修繕
実施期間：2023年10月～2024年6月
従事者数：日本側5名、現地側 名
受益者数：学生、教師、保護者、地域住民 約300名
事業地：メキシコ合衆国チアパス地区
支援機関：一般財団 日本寄付財団

事業概要 (1-2)

2023年7月～2024年6月30日

(1-2) 海外支援事業

⑦

ハイチ 学校修繕

事業内容：教育環境の改善のための学校修繕

実施期間：2023年10月～2024年6月

従事者数：日本側5名、現地側 10名

受益者数：学生、教師、保護者、地域住民 約200名

事業地：ハイチ共和国プチゴアープ地区

支援機関：一般財団 日本寄付財団

⑧

ネパール 学校修繕

事業内容：教育環境の改善のための学校修繕

実施期間：2024年6月～

従事者数：日本側3名、現地側 10名

受益者数：学生、教師、保護者、地域住民 約2200名

事業地：ネパール

支援機関：一般財団 日本寄付財団

⑨

マルタ 医療支援チャリティーイベント

事業内容：障害のある子ども達の医療支援の為にチャリティーイベント

実施期間：2024年6月28・29日

従事者数：日本側 8名

参加者数：約 420名

開催地：マルタ共和国

事業概要 (2)

2023年7月～2024年6月30日

(2) 国内活動

①

女性のリーダーシップ シンポジウム

事業内容：ウクライナの女性リーダーを招いての講演、文化交流会

実施期間：2023年11月21日

従事者数：日本側35名、ウクライナ側24名

参加者数：約100名

開催地：衆議院第一議員会館 国際会議室

②

ウクライナアートイベント 国際文化交流会 和WO!-フォ-

事業内容：ウクライナのアーティストを招いての国際文化交流会

実施期間：2024年4月26日～28日

従事者数：日本側11名、ウクライナアーティスト1名

参加者数：約50名

開催地：東京都渋谷区 ギャラリー和々

③

インターンシップ活動

- 文化交流イベント
- 国会見学ツアー
- バリ島スタディツアー
- ウクライナ青年団とのリーダーシップイベント

④

ファシリテーション セミナー

- メディカルファシリテーション第2回セミナー開催
- 一般ファシリテーションセミナー開催

理事長挨拶 鈴木澄子



佐藤前理事長の協力のもと、会長や役員、会員の皆様、そして多くのボランティアや関係者の皆様のご協力を頂きまして今年も無事に1年を迎える事ができました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。今年は、昨年に引き続き、インターン生と共に海外でのスタディーツアーで様々な活動を行っております。参加者の皆様からは、貴重な体験を得られて大きな学びになると喜びの声を頂いています。社会貢献とは、支援とは何かを実際の現場でそこにいる人々と関わる事で、深く考えさせられる事ばかりで先代の理事長や理事、スタッフの皆さんのお力を頂きながら錬磨の毎日です。

今年はまだ、新たに子ども達の医療支援という機会を頂き、私達にとってもこれから更に意義ある活動になる事と希望をもって取り組んでいます。ICAの今までのファシリテーションの手法を活かしながら多様性と平等の必要性を皆様と共に実現して参りたいと思います。まだまだ至らない事が多々あるかとは思いますが、引き続き『こたえは人々の中にある』との思いでICAの役割を果たしていきたいと思っております。

今後も皆様のご支援のもと、たくさんの方に愛されるICAジャパンを築いていく為に、ダン副理事長と一緒に全力で取り組んで参りますので、どうぞご指導、ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

活動写真



役員のご紹介

会長 青柳陽一郎
副理事長 ダンヒンクルマン
理事 石井良太
名誉顧問 佐藤静代

理事長 鈴木澄子
理事 岩田護
監事 笹尾隆



141-0001

6 6-15

105

TEL:03-5879-9193 Email: info.ica@ica-japan.org

URL: <https://icajapan.org>